

第3回地震等災害被害予測調査検討有識者会議 概要

1 日 時 令和8年3月10日（火）10時00分～11時30分

2 場 所 県行政庁舎 6階 災害対策本部室

3 出席者

中尾委員，柿沼委員，中道委員（※），酒匂委員，地頭菌委員，奥村委員（※），廣井委員（※），磯打委員（※），入江委員（※），前田台長

※ オンライン出席の委員

4 議事概要

- (1) 災害想定（地震動，液状化，土砂災害）の評価結果（速報値）の報告
- (2) 建物・人口データの整理と前回調査との比較
- (3) 建物・人的被害の予測手法の検討

5 委員からの主な意見等

<災害想定（地震動，液状化，土砂災害）の評価結果（速報値）の報告>

- 各市町村の最大震度について，前回調査から極端に小さくなる地域は一覧で確認できるようにしてほしい。
- 本調査において想定していない地震により，今回想定している以上の揺れも起こりうる。誤解を招かないように別の計算をするのか，記載を工夫するのか，何かしらの対応が必要である。
- 震度分布について，鹿児島湾直下地震における鹿児島市を見ると，最大震度は7→6強になったが，6強のエリアは広がっている。細かい地域区分での公表は行わないのか。最大震度は1メッシュでもあれば最大震度としているのか。
- 他県では10メッシュ以上ある震度区分から最大震度を求めるケースがある。今回は，1メッシュでもあれば，最大震度としているが，誤解を招く公表の仕方とならないよう，今回どういう形で公表するべきか検討してほしい。
- 地下水位は，天気依存すると思うが，液状化の評価にどのような影響を

与えているか、報告書には記載をしてほしい。

- 平野部の二次シラスは F_c をどのように設定しているのか。二次シラスにおいて液状化が発生しやすい評価になっていれば良い。
- シラスの揺れが大きめに出る場合、大規模盛土の場所や安定性は反映できるのか、考慮してほしい。
- 液状化や土砂災害の想定結果を用いて、前回調査以降どのような対策を促してきたのか。被害想定の結果のユーザーとして、土木部署や道路部局、物流など行政サイドのユーザーを念頭に置くと良い。結果を示すだけでなく、具体的な対策との関連を示し、どのような対策に繋げるための被害装置なのか、一度整理すべきである。
- P.19 は土砂災害警戒区域のみの算定結果か、山腹崩壊危険箇所の結果は別途算出しているのか。山地災害と土砂災害警戒区域は重なっていると思うが、どのように評価するか方針は決まっているか。
→ 方針は決まっていないので、このあと検討して御相談したい。（事務局）

<建物・人口データの整理と前回調査との比較>

なし

<建物・人的被害の予測手法の検討>

- 津波の避難速度については、要配慮者だけ低下するのか、要配慮者をサポートする人も低下するのか。サポートする人も低下するのであれば、要配慮者1人にあたりサポートする人をどの程度見込んでいるのかも記載してほしい。
- 災害関連死については、能登半島地震の最新のデータに置き換えて計算したほうが良い。
- 津波による人的被害について、共助の力で避難すると効果があることを示せると良い。また、その共助の内容についても反映できると良い。

<その他>

- 津波の予測について、河川課では地球温暖化を考慮した検討を行っているが、本調査では考慮するのか。
- 報告書は住民が見て分かりやすい資料になるようにしてほしい。
- 液状化は離島の往来などインフラに影響を与えると想定される。そういった内容が見える化できると良い。